

平成25年10月発行

11月1日～7日は  
文化財保護強調週間

# ぶんかざい おおた 第16号

文化財愛護シンボルマーク



文化財まもるくん



文化の日をはさんだ11月1日から11月7日までの期間を中心に、国民が文化財に親しんでいただくことを目的に、全国各地で文化財関連のいろいろな行事や事業が開催されています。

1949（昭和24）年1月26日、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺（奈良県斑鳩町）の金堂が炎上し壁面が焼損したことは、国民に強い衝撃を与え、翌25年には文化財保護の統括的法律として文化財保護法が制定されました。その後、法隆寺金堂の修理事業が竣工（1954・昭和29年）した日にちなみ、11月3日が文化の日となりました。

文化財愛護シンボルマークは、広げた両手のひらのパターンによって日本建築の重要な要素である斗拱（ますがた、組物）のイメージを表し、これを三つ重ねることによって、文化財という国民の遺産を過去・現在・未来にわたり継承していくという愛護精神を象徴したものです。

## 新たに指定され、解除された文化財

池上本門寺山内、重要文化財の「池上本門寺宝塔」の周辺に、江戸幕府の御用絵師として画業を掌握してきた狩野家（中橋、鍛冶橋、木挽町および浜町の4家）の墓所があります。このうち、狩野派中興の祖とされる狩野探幽の墓は東京都旧跡、その父である狩野孝信の墓は大田区指定史跡に指定されていることをご存じの方も多いと思います。

このたび、狩野4家の墓所が、それぞれの家系ごとにまとまって埋葬されている点や、墓石の形に一定の規範があり、大きさに奥絵師の階層差が反映されている点など、その歴史的重要性が再評価され、平成25年3月25日に「奥絵師狩野家墓所」として東京都指定史跡に指定されました。

奥絵師狩野家の事跡を伝える墓所には、61基の墓塔の他、筆塚や位牌、墓からの出土品なども含まれます。

この指定に伴い、これまで指定されていた「狩野探幽墓」および「狩野孝信墓所」は解除となりました。

穏やかな秋の季節、散策がてら、様々な形の墓石を観察してみたいはいかがでしょうか。



左から木挽町1代尚信、中橋6代貞信  
探幽の父・狩野孝信の墓





## 発掘調査 くがはらいせき 久ヶ原遺跡



平成 24 年 11 月、久が原六丁目 13 番の建設工事に伴い、約 36 m<sup>2</sup>を発掘調査しました。久ヶ原遺跡(大田区遺跡番号 81)は東日本を代表する有名な弥生時代の遺跡で、これまでの発掘調査により弥生時代後期(1世紀～2世紀)に大規模な集落が形成されたことがわかっています。

南関東の弥生時代の研究から、年代を明らかにする際の基準となる土器の型式として、久ヶ原遺跡から発見された土器が示準となり、「久ヶ原式土器」と命名されています。

なお近年では、弥生時代後期において、集落に囲まれるような形で遺跡の中央に方形周溝墓が群在し、墓域が形成されていたことも明らかになりつつあります。

また遺跡からは、弥生時代だけでなく、先土器(旧石器)時代、縄文時代、古墳時代や中世などの遺構や遺物も見つかっていることから、この場所が連綿と人びとに利用されていたことがわかります。

さて、今回の調査では、弥生時代の竪穴住居跡 1 軒、古墳時代の竪穴住居跡 1 軒が発見されました。出土した遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器(古墳時代の土器)などです。

今回の調査の最大の成果は、古墳時代後期の住居跡が発見されたことです。これまでに久ヶ原遺跡では、久が原四丁目 39 番で当該時期の住居跡が発見されています。



古墳時代の住居跡の調査風景

調査範囲の関係で、住居跡は全体の 3/4 強に相当する範囲の調査となりましたが、住居跡の床面の上から出土した土器から、この住居跡が 6 世紀末～7 世紀前半頃に位置づけられることがわかりました。



### 土師器(はじき)の出土状況

住居の規模は、調査した範囲で東西約 3.7m、南北約 4.5m で方形を呈していません。主となる柱は 4 本で、住居の西壁の中央部に竈(かまど)が設けられており、柱の配置と竈の位置から住居の入り口は東側にあったことが推定されます。

なお、古墳時代の住居跡の床面を掘り下げたところ、弥生時代後期の住居跡が発見されました。つまり、古墳時代の人々が、弥生時代の住居跡を壊す形で、新たに住居を築いたことがわかりました。

これまでに古墳時代の住居跡は久ヶ原遺跡の北西側でまとまって発見されましたが、時期はいずれも古墳時代初頭のものでした。今回の調査地点は、遺跡の南西部にあたり、時期は後期にかかることから、今後、古墳時代の集落の分布と展開を考える上で貴重な調査例となりました。

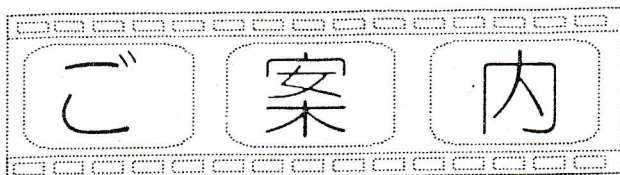
### 平成 24 年度 埋蔵文化財調査件数

発掘届：93 件

本調査：3 件(久ヶ原遺跡 2 件、  
下沼部貝塚)

試掘調査：7 件(桜橋付近遺跡、  
洗足池公園付近遺跡、  
馬込城跡ほか)

確認調査：1 件(八幡塚)



## 東京文化財ウィーク

文化の秋、都内全域で文化財をより身近に感じていただくため、国・都指定文化財をお見せする公開事業のほか、各区市町村等による文化財に関連した企画事業が行われます。

### ★ 文化財関連企画事業

10月1日(火)～11月30日(土)

### ♥ 公開事業

10月26日(土)～11月4日(月・祝)

大田区では、次のような事業を行います。皆様のご参加をお待ちしています。

### ★ 史跡めぐり

#### 「六郷地区」～仏像探訪～

日時：10月10日(木) 午後1時30分～

見学場所：安養寺、東陽院ほか

問合せ先：郷土博物館 文化財担当

### ★ 文化財講演会

#### 「近代化遺産が語る大田区の歴史」

日時：11月10日(日) 午後2時～4時

場所：萩中集会所

講師：伊東孝氏(日本大学名誉教授)

問合せ先：郷土博物館 文化財担当

### ★ 文化財写真パネル展

区内の文化財調査、遺跡調査を紹介します。また、区内から出土した遺物も展示します。

日時：10月26日(土)～31日(木)

会場：大田区役所1階ロビー

### ★ 博物館講座

#### 「大田区古墳時代—埴輪—」

大田区古墳時代文化を「埴輪」をキーワードに講座を行います。ミニ展示も同時開催。

日時：①11月24日(日)・②12月1日(日)

いずれも午後2時～4時

会場：郷土博物館

問合せ先：郷土博物館 学芸担当

### ◆ 東京文化財ウィークガイドブックの配布

公開事業や企画事業の日程や内容等が掲載された冊子です。

配布場所：郷土博物館

※ 数に限りがあります。配布終了の際は、ご了承ください。

### ♥ 文化財の公開

#### ①大坊本行寺(池上2-10-5)

・「法華経板木」都指定有形文化財

11月3日(日・祝)、午前9時30分～午後4時

当日、現地へ。

・「日蓮上人入滅の旧跡」都指定旧跡

通年公開 午前9時30分～午後4時

#### ②池上本門寺(池上1-1-1)

・「本門寺五重塔」国重要文化財指定

外観のみ公開 午前9時～日没

・「池上本門寺宝塔」国重要文化財指定

外観のみ公開 午前9時～日没

・「奥絵師狩野家墓所」都指定史跡

通年公開 午前9時～日没

#### ③多摩川台公園(田園調布1-63-1)

・「亀甲山古墳」国指定史跡

・「宝萊山古墳」都指定史跡

・「多摩川台古墳群」都指定史跡

通年公開 午前9時～午後4時30分

ただし、月曜及び年末年始を除く。

#### ④大森 海苔のふるさと館(平和の森公園2-2)

「大森及び周辺地域の海苔生産用具」

国重要有形民俗文化財

通年公開 午前9時～午後5時

ただし、第3月曜(祝日の場合は翌日)及び年末年始を除く。

6～8月は午後7時まで。

## 新しい刊行物のお知らせ

### ◆ 大田区の埋蔵文化財第21集 1,100円

『久ヶ原遺跡Ⅳ 丸山遺跡Ⅰ 山王遺跡Ⅳ

下沼部貝塚Ⅰ 稲荷森遺跡Ⅰ 発掘調査報告』

平成21年度および22年度に実施した5遺跡の発掘調査報告書です。久ヶ原遺跡・丸山遺跡では弥生時代後期の竪穴住居跡、山王遺跡では古墳時代前期の竪穴住居跡が発見されました。

・販売場所 郷土博物館 または

大田区役所2階(区政情報コーナー)

2013(平成25)年10月

大田区立郷土博物館 文化財担当 編集発行

大田区南馬込5-11-13 〒143-0025

TEL:03-3777-1281 FAX:03-3777-1283